

1. 本園の教育目標

- ・健やかで豊かな心身を養う
- ・礼儀正しく思いやりのある心情を培う
- ・協調性に富み、やり遂げる意欲を養う

2. 重点的に取り組む目標・計画

子ども達が安全に伸び伸びと園生活をおくれるように、感染予防等の衛生面と保育の展開の見直しを検討する。

3. 評価項目並びに取り組む指標

評価項目1：感染予防のために必要な指導や内容の検討を行う

- ① 毎日の視診・対話や検温票で健康状態を把握する
- ② 手洗いや消毒を保育者が率先して行い、定期的に予防法を伝える
- ③ 感染予防のための環境を視覚化（ポスターやお便り等）し周知出来るようにする
- ④ 様々な感染症対応マニュアル作成と職員間での共通理解を深める

評価項目2：子ども達が伸び伸びと体を動かし楽しむ保育の展開を考える

- ① 体を動かすことが出来る遊びや遊具の準備をする
- ② 子ども達の遊びの様子や人との関わり方を見る
- ③ いろいろな遊びを行い子どもの様子や関心、人との関りを記録する
- ④ 子ども達が興味を示した遊びなどを報告したり、新たな遊びを提供しあったりすることで子どもの遊びを広げる

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目1

	取り組み状況、考察	子どもの姿
①	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時に一人ひとりに声掛けすることで怪我や体調の異変に気付くことが出来た。 ・検温票での確認をしたのち、子どもの表情や声のトーンに注視するようにすることで、健康状態の把握に努めた。 	
②	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に手を洗う際には、泡立 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を真似する姿が見られ

	てから洗う手順、洗い流すまでを見せるようにし、真似しようとする気持ちを持たせるようにした。	るようになり、年齢によっては自ら率先して行う姿も見られるようになった。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い場や廊下に子どもの目線に極力合わせポスターを掲示した。 ・言葉で伝えるだけでなく、絵本や月刊誌などを使い、視覚からも情報を伝えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防についての知識と理解が少しずつ深まり、マスクの未着用や手洗いうがいを忘れていた友達に注意を促す姿も見られるようになった。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や関係機関からの資料を配布するにとどまり、マニュアル作成するための時間の確保ができなかったため、共通理解を深めるに至らなかった。 	

評価項目 2

	取り組み状況、考察	子どもの姿
①	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具、ボール、縄跳びなどを準備し、積極的に戸外遊びに行くようにした。 ・園周辺を散歩する際には階段や坂があるルートにしたり、水たまりを跳んだり小石を投げ入れたりなど、自然のものも環境として提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具を積極的に使う5歳児を見て、後をついて真似をする3・4歳児も見られたが、好奇心よりも恐怖心が勝り思うように遊べていない子どももいた。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外と屋内で遊びにかかわる人が異なることもあるので、十分に観察するように努めた。 	
③	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児と遊ぶ機会も多いので、かかわり方の様子や遊びの広がり方を観察し共有するように努めた。 ・興味を持った遊びに対して、発展や広がりが見られるようなサポートができるような準備を心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児とかかわることで、3・4歳児は遊びの幅が広がり、5歳児には年齢差を考慮したルール作りをする姿が見られた。 ・遊びの種類によっては集団の規模が大きくなり、保育者にも参加するように声を掛ける姿も見られた。

④	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから遊びの発案がある際や遊びのルール作りには保育者も参加し安全面を配慮し見守り、適宜助言した。 ・その日の出来事や楽しいエピソードなどを終礼やミーティングの際に伝え、情報共有に努めた。 ・生活リズムや身体の発達も他学年は異なるため(未就園児、3歳児)、他学年と一緒に係ることが出来る遊びが少なかつたため、ディスカッションする機会を設ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見の違いからトラブルになる事もあったが、複数の意見を取り入れてみたり、1人の意見を基にしたルールを順番に試してみたり、その過程で新しい遊びが生まれたりする姿がみられた。
---	--	--

5. 総合的な評価結果並びに課題

感染予防から園生活の安全性を担保できるように取り組んだ結果、教職員のみならず子どもにも予防や衛生の意識定着が例年より高まったが、ポスター等は子どもの目線を考慮した展示の徹底と教職員の更なる意識定着や共通理解を担保するためにもマニュアル作成をする必要がある。

体を動かし楽しむ保育展開については、異年齢との遊びと同年齢の遊びとで相互に作用することもあったが、十分に遊びこめるようにもっと密な意見交換や目的を設定し、考察・改善し環境整備していく必要がある。

6. 学校関係者の評価

少人数であるため先生や子ども同士の関りが深くなり人間関係の形成に繋がっていると感じるが、制作等では異年齢での取り組みがあってもよいと思う。

評価項目2の結果から、各々の保育を見直しに取り組んでいるのは伺えるが、職員研修等の機会を増やし情報収集しつつ本評価の改善に取り組むことで、保育の質向上と子ども達への還元に繋がるとことを期待する。

感染症のマニュアル作成は早期に取り組んでほしい。また、園での感染症等の状況や感染対策を家庭に情報提供し家庭の協力も得ることで、一層の感染症対策に繋がると思う。

令和5年3月31日

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員